

特42

459

幸都樂小町  
xw

館書圖京東

一 一 〇 冊	741 號	四 七 架	九 八 函	音 樂 類	和 書 門
------------------	----------	-------------	-------------	-------------	-------------



事又種の人世の事は海に波は来れ  
仏教よあひまゐるをさうはらへり  
頼なる思ふは人のあはれ書の書  
才はあつては生れぬ先世の  
まはしく憐しむはあはれ親乃  
なまの秋鳥よさうさうさうさ  
あつ子屋で行もまきく野より

山は向ふ方にはそまゝの栢あはく  
初次の浮草よさうさうさあはれ  
あはれまはれはさうさうさ  
まんまんとあはれはさうさ  
あはれはさうさあはれ楊柳乃まの  
あはれはさうさあはれ露を  
あはれはさうさあはれ教を



まつたてしるるに身成馬人あきり  
 腰がきさるるかきりも仏身色  
 性のこころかへりあはれさうし  
 てよりの可もあまきる人に佛の身成  
 乃もまきりしるる直人を見しほりよ  
 ちもみりしるる像もあはれの朽  
 本も社のたき 総の窪の朽の木のあ

早も花の受したらはれあらむもしも  
 縁もよししるるもあらむもしも  
 今も抄も賜しるもあらむもしも  
 のまあらむもしもにち向しるもあらむもしも  
 扱ひ持たたるもし謂はるもあらむも  
 名も金剛障の障りりも出候して三摩耶  
 形も行ひ給ふ行ひあらむも形もいり



地水火風空 五侍五輪の人の侍

行し隔ある人きう 像のそけな奉

の共の功德の替る人 儲る人

乃をさくわうよ 一見率教受取

三零箇 一合致起菩提心

心して入る人 菩提心ありあ

浮由なる人あそ 染る由なる人

心結する人あそ 佛侍と志

心結する人あそ 佛侍と志

心結する人あそ 佛侍と志

心結する人あそ 佛侍と志

心結する人あそ 佛侍と志

心結する人あそ 佛侍と志

観音の慈悲 繫持の畏敬 文

殊乃智慧 妙くとも 善あり

煩悩とつて 善提也 善提也

植木ありて 明鏡又 曇りあり

空す来一物ありてハ仏も空すも

隔ありてえよりをち乃凡を救ふ

鳥の方便のさう云の誓の願ありて

縁ありて浮入して衆をよ

ちと然る非人ありて僧ありて

地よりまきく三度礼入ハ 神の汝

時さうさし然たり事のきとて極

樂ありてありてありてありて

行く者ありてありてありて

乃きりけりてありてありて







そなたに 浄夜を過すも  
浄夜の移りゆくも  
かきこむ 将夜に神を  
人々の 痛路の口も  
ゆがみの ありけり  
雨雲より 行乃玉水  
お行して 御り  
一夜

二夜三夜 四夜七夜  
乃月の 第會  
庭より 時  
十九夜よ あり  
自まつ や胸ら  
一夜よ あり

かのの其書入るる事なりして  
 又抄本の相もひる事也 是よりきて  
 其書の世をねりしりまゝに成るる  
 抄と塔とがさうく黄令なりと  
 こまやうよねを松よ手向つて  
 のみりよらよやく

華

十尾

右之本者觀世太夫織部  
 章句真本令放行畢

正徳六丙 申歲弥生

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治十七年三月六日翻刻御届  
同年四月十二日別製本御届

定價四錢

翻刻人

京都府平民

寺田熊次郎



下京區第五組麩屋町

錦小路上梅屋町十三番戶

